

1月のコラム 取捨選択の基軸を持ちたい

寒い時期に大掃除をしなくてもいいよ、暖かいうちと思っていたのが、あっという間に年末になり、手を付けたものの片付けきれず、新年早々に整理整頓をする羽目に・・・年始のゴミ袋が膨れ上がるのは毎度のことではありますが。

断捨離という言葉が流行ったのは15年前、それから「ミニマリスト」も登場しました。整理整頓方法の情報を度々仕入れ、シンプルライフに挑戦するも物を捨てるというのはなかなかできないものです。まだ使える、また必要になるかも・・・と考えてしまうのですよね。「余計な物は買わない」「物を減らす」というのは私の課題の一つではあるのですが、そんなことが課題になるのは、高度成長期に育ち、消費文化にとっぷり浸かってきた世代特有の話なのかもしれません。

靴もカバンも最近の若い人たちはとてもシンプルです。足元は、ほぼスニーカーで、かつて自分がしていたように色やヒールの高さ等が異なるたくさんのパンプス、サンダル、ブーツを揃えるなんてことはしていません。革製の重いブランドバックでなく、軽くて実用的な布製のエコバッグ風のを肩から下げている子が多いように見受けられます。ファッションが全体的にカジュアルになっているせいもあるとは思いますが、シンプルで目的にかなった選択ですよね。失われた30年の間に生まれ育った若者は、「グルメ、車、海外旅行＝楽しい生活」みたいな時代に育った私たちとは、違うところに価値観があるのでしょうか。

極端な例ですが、NHKで再放送されていた司馬遼太郎原作のドラマ「坂の上の雲」の中で、兄弟が一つの茶碗で順にご飯を食べるシーンがありました。料理に合わせていろいろな種類の皿を揃えるのも楽しみのひとつではありますが、片付けを進める中で「物を買うときは慎重に」と強く思いました。これから歳を重ねると、できないことがだんだん増えていきます。自分にとっての幸せが何なのか。きちんと見極めて、それを基軸に取捨選択できるこれからの人生でありたいと思います。

年始から毎度の他愛のない話にお付き合いいただきありがとうございます。読んでくれる方がいてくださってこそ書ける幸せに感謝し、今年も月に一度の発信を続けたいと思います。

本年もどうぞよろしくお願いいたします。

2025年1月 水田かほる